

最終処分場の形式による比較表

最終処分場の形式	山間	平地	
	谷沢型	掘込み型	盛立て型
想定されるリスク	①上流域からの雨水や地下水の集水、それに伴う土砂災害(地すべり等)の発生 ②地下水の影響による遮水工の破損 ③谷底の軟弱地盤(地盤沈下等)	① - ②地下水の影響による遮水工の破損 ③軟弱地盤(地盤沈下等)	① - ② - ③軟弱地盤(地盤沈下等)
対応策	① ○谷地形は、雨水や地下水が集まりやすい地形であり、地すべり等の土砂災害等が発生しやすくなる。 また、上流域で発生した崩壊や地すべりが土石流となって流下する恐れもある ⇒谷の流域面積や地形から、谷へ流れ込む水量を計算したうえで、雨水排水溝や防災調整池の整備を行う ⇒地下水調査や流域面積等から地下水量を計算したうえで地下水集排水管の整備を行う ⇒土砂災害への対策としては、まずは斜面の掘削や盛土による対策を講じることが必要。その他、埋立場の上流に砂防堰堤を整備する手法もある なお、今回の候補地選定については、防災面を重視し、土砂災害警戒区域などの適当でないと考えられる区域を除外したうえで、さらにスクリーニング項目として、土砂災害の危険性についての評価も行う予定である	-	-
	② ○地下水の流向や地下水位によって揚圧力(下から押し上げる力)や地盤沈下(地下水が流れることによって地盤が下がる)が起こり、遮水工が破損する恐れがある ⇒地下水調査や流域面積等から地下水量を計算したうえで、遮水工の下に地下水集排水管の整備を行う	○平地を掘り込んだ処分場となるため、周辺地下水の流向や地下水位の変動により、揚圧力や地盤沈下が起こり、遮水工が破損する恐れがある ⇒地下水調査等から地下水量を計算したうえで、遮水工の下に地下水集排水管の整備を行う	-
	③ ○谷底は堆積土砂により軟弱地盤を形成している場合があり、地盤沈下を起こす可能性がある ⇒軟弱地盤対策は様々な工法が確立されており、現地に応じた対策を実施することが可能 ●軟弱層が浅い場合の対策例 ・軟弱層を除去し良質材と置き換える「置換工法」 ・表層の地盤にセメント等を混ぜて固める「表層混合処理工法」など ●軟弱層が深い場合の対策例 ・圧力をかけて軟弱層内の水を抜く「圧密排水工法」 ・杭を打ち込んだり振動や衝撃により軟弱層を締め固める「締固め工法」など ⇒なお、今回の候補地選定については、表層地質の評価を行う予定である	○平地は、山間より軟弱な粘土層や緩い砂層が多く、地盤沈下や液状化を起こす可能性がある ⇒軟弱地盤対策は様々な工法が確立されており、現地に応じた対策を実施することが可能 ●軟弱層が浅い場合の対策例 ・軟弱層を除去し良質材と置き換える「置換工法」 ・表層の地盤にセメント等を混ぜて固める「表層混合処理工法」など ●軟弱層が深い場合の対策例 ・圧力をかけて軟弱層内の水を抜く「圧密排水工法」 ・杭を打ち込んだり振動や衝撃により軟弱層を締め固める「締固め工法」など ⇒なお、今回の候補地選定については、表層地質の評価を行う予定である	同左
その他	■今後のスクリーニングにおいて、航空レーザ計測結果により土砂災害についての評価を行う予定 ■建設予定地が決定した後、基本計画・基本設計、実施設計等の各段階において実施する下記の調査やその解析が重要 ・地表地質調査、ボーリング調査、物理探査等の地質調査 ・地下水流向や恒常的な地下水位や水位の変動を把握するための地下水調査 ・谷地形の場合の地下水集排水量を把握するための河川流量調査		